

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りお作りいたしております。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司

俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル
電話 (075) 432-2211

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル
電話 (075) 432-3101

図明

平成三十一年 正月号(第二二号)

大本山相国寺
相国会本部

賀正

平成三十一年 己亥

◆表紙説明

「法堂 天蓋の天人図」

法堂中央の須弥壇上に天井から釣り下がる「天蓋」がある。
その内部を見上げると、「天人図」が描かれており、寺伝では、
天井の「蟬籠図」と共に狩野光信筆とされている。



まるにくん © 2019 相国寺



歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

平成三十一年

歳旦

八十六歳、春幾び回る

吾を愧ず柳に逢い、又た梅に逢う

黄鶯唱起す、宗門の曲

新年挙著して、佛法来たる

大龍叟

八十六歳、幾たびの春か。

吾を愧じて、柳に逢い、又梅に逢う。

ウグイスが、宗門の行方を鳴いている。

こぞって著す、新年の佛法が来ることを。



「若冲——〈動植綵絵〉を中心に」展

欧州初の大規模な若冲展開催される

期間：2018年9月15日(土)～10月14日(日) 会場：パリ市立プティ・パレ美術館

主催：国際交流基金、日本経済新聞社、宮内庁、パリ市立プティ・パレ美術館／パリミューゼ

(詳細は、本文24ページを参照)



「ジャポニスム2018若冲展」会場のプティ・パレ美術館



美術館に掲示された「JAKUCHŪ」の幕



相国寺より出陳された若冲筆「釈迦三尊像」



館内の本尊前で行われた法要

平成三十年八月三十一日

山崎大耕相国寺派元管長ゆかりの 台湾臨濟禪寺「開山壺百年遠諱法要」厳修

(詳細は、本文25ページを参照)



浄心長老と親しく懇談される有馬管長



法要前に山崎大耕老師の墨蹟を贈呈された



導師として「香語」を唱える有馬管長



日本側に続いて中国側僧侶により法要が厳修された



承天閣美術館の本多学芸員による講義



坐禅中の研修生



東福寺開山堂「常楽庵」前で記念撮影



開講式で御垂訓中の有馬管長

(詳細は本文26ページ、本山だより52ページを参照)

撮影◎教学部

平成30年11月6日～7日

第二十六回 相国会本部研修会開催



目次

カラークラビア	2
◎若冲―《動植綵絵》を中心に―展	4
◎山崎大耕相国寺派元管長ゆかりの台湾臨濟禪寺「開山壹百年遠諱法要」厳修	6
◎第二十六回 相国会本部研修会開催	10
年頭御挨拶	16
年頭御挨拶	20
若冲―《動植綵絵》を中心に―展 開催	24
台湾臨濟禪寺にて開山壹百年遠諱法要	25
第二十六回 相国会本部研修会 日程	26
第二十六回 相国会本部研修会 参加者	27
仏道定款	28
相国寺の庭園《第五回》大書院小書院の庭園	32
しあわせの杖	37
本山だより	47
坐禅会のご案内	54
教区だより	57
釈宗演禪師の百年遠諱を迎えて《最終回》	67
教化活動委員会活動報告	75
相国寺史編纂室だより	78
年忌早見表	79
京の冬の旅 非公開文化財特別公開	92
相国寺 春の特別拝観	93
宝物拝見「鳴鶴図」	94
承天閣だより「温故礼讃―百花繚乱・相国寺文化圏―」	96
カラークラビア	98
◎第二教区福性寺 第二十世 吉田厚司新住職晋山	99
心のすがた	100

U R L <http://www.shokoku-ji.jp>
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。



相国会総裁 有馬頼底
副総裁 佐分宗順
会長 片岡匡三
本部長 矢野謙堂
平成三十一年元旦

内局

管長	有馬頼底
承天閣美術館名誉館長	
宗務部長	豊光寺住職 佐分宗順
庶務部長	大光明寺住職 矢野謙堂
教務部長	普廣院住職 山本雅晶
財務部長	眞如寺住職 江上正道
参事	豊光寺副住職 佐分昭文
財務・庶務部員	長得院副住職 荒木文紹
参務	光昭寺住職 有浦宗健
参務	長得院副住職 有浦宗健
承天閣美術館館長	養源院住職 平塚景堂
同 事務局長	長栄寺住職 鈴木景雲
同 参事	養源院副住職 平塚景山
鹿苑寺執事長	林光院住職 澤田賢明
同 執事	是心寺住職 和田賢明

慈照寺執事長	桂徳院住職 小出量堂
同 執事	慈照院副住職 久山哲永
宗議会議員	
第一教区	慈照院住職 久山隆昭
第二教区	竹林寺住職 牛江宗道
第三教区	見性寺住職 梶谷承忍
第四教区	善應寺住職 五十嵐祖傳
第五教区	眞乗寺住職 木下雅教
第六教区	本誓寺住職 延本輝典
第一教区	林光院住職(正) 澤田宗泰
第二教区	大光明寺住職(副) 矢野謙堂
第三教区	竹林寺住職(正) 牛江宗道
第四教区	眞乗寺住職(正) 木下雅教
第五教区	圓福寺住職(副) 田中太真
第六教区	本誓寺住職(正) 延本輝典
第六教区	感應寺閑栖(正) 芝原一三

謹奉賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

相国会、檀信徒の皆様、明けましておめでとうござい
す。昨年は、海外へ四度の出張を済ませましたが、最後の
北朝鮮から帰って、この稿を書いております。檀信徒の
皆様には、恙なく^{つが}ご越年のことと存じ、お慶び申し上げ
ます。

昨秋、日佛交流百六十年にあたり、ジャポニスム文化交

流として相国寺が所蔵する伊藤若冲筆「釈迦、文殊、普賢
三尊佛」と宮内庁蔵の「動植綵絵^{どうしよくさいえ}三十幅」の合計三十三幅
を合わせて、日本、フランス、京都、パリ友好記念として
の展示をパリ市立ブティ・パレ美術館で開催いたしました。
以前同地で「相国寺名宝展」を開催したので、我が国の
文化財について、フランス側はよく理解しているであろう、
と思っております。ところがフランス側の、というよ
りは日本側の意向で、会場はベルサイユ宮殿で、というの
です。しかし、ベルサイユは宮殿であり、美術館ではあり
ません。空調も何もない所と聞くと、大切な文化財は展
示できないなと思い、当初は出展しないことにしました。

すると、場所を替えれば出展していただけますか、という再要請があり、最終的にプティ・パレ美術館となったのであります。こちらでの開催は数年ぶりのことであり、これなら安心して出展できると思いました。

展示には、皇太子殿下がお見えになることになって、私が案内をすることになりました。その前に開山、文殊、普賢三尊ならびに若冲の諷経を、相国寺から宗務総長以下四人が出頭して無事に済ませたところで、殿下がお見えになり、その詳しい知識には驚かされました。そして裏千家の業^{ぎょう}躰^{てい}による茶席が出来て、殿下もおいでになり、

私の前で、「お久し振りですね」と言われ、私も返事をさせていただきました。そういうわけで、パリでの行事を無事にすませて帰国したのであります。

それから、ほかの海外巡教として、台湾の臨濟禪寺では、同寺開山壱百年遠諱法要の導師を仰せつかりました。こは、のちに相国寺派管長となる山崎大耕老師が第三世住職をつとめられた寺でもあり、因縁浅からぬところでもあります。

さらに韓国天台宗の觀門寺では、日本から煎茶道の黄檗賣茶流家元の中澤氏と同道して平和祈念法要や献茶式

などのセレモニーを行い、続いて韓国式の笛や琴の音楽入りの献茶式があり、なかなか悠長な式典でありました。

さて今年は、相国寺にとりまして重要な師僧、前管長の梶谷宗忍（止々庵）老大師の二十五回忌の法要、又相国僧堂開単の法要を行った誠拙周樗^{せいせつしゅうちよ}禅師（大用国師）の二〇〇年遠諱もございます。この禅師は鎌倉円覚寺から相国寺に僧堂を開単すべく拝請し、病をおして京都へ来ていたのだのですが、山内塔頭の玉龍院に滞在されて病氣療養中に遷化されたということもあり、当寺では再中興として厚く遇しているのであります。

また、宗務総長の提案で、相国寺の宗制、寺院規則改正等あり、臨時宗会を開催し、万刃なく決議され、これからの諸行事がやりやすくなることは、誠によかったと思います。

最後に、昨年五回目の巡礼となった北朝鮮は、その雰囲気も随分かわってきた様に思われます。祖国統一を願う現地の人々の思いに、何とか協力したい思いであります。ケソン（開城）に靈通寺が建立され、ようやく北に佛教の根本道場が出来て、それが根づいてくれば法幸至極である、ということを書いて、年頭のご挨拶いたします。



宗務総長 佐分宗順

本派寺院、相国会、檀信徒の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は西日本の豪雨や北海道の地震などの自然災害や、心痛める出来事がありました。そんな中で困難に立ち向かい活躍された方々、あるいは人類の未来に貢献する研究や発見をされた方々の努力や功績を報道で知り、人のために心血を注ぎ努力を重ねて成果を上げてこられた方々がおられることに、困難な世相にあっても、心強く、未来に希望を持つことができ

ると感じました。

本山におきましても、昨年の台風では例年になく被害を受けました。気候変動の激しい周期に入っているのでしょうか、私たちも油断することなく、災害や不測の事態に備える心構えが大切だとあらためてその必要性を実感いたしました。

一方相国寺が所蔵する伊藤若冲の「三尊仏」が宮内庁所蔵の「動植綵絵」三十幅とともに、パリのプティ・パレ美術館でフランスでは初めての特別展が開催され、人気を博しました。管長をはじめ本山スタッフとともに開会に先立ち展示場で法要を営みました。この期間、フランスではジャポニスムと題して日本の文化を紹介する催しが開催され、臨黄合議所では、円覚寺派管長の横田南嶺老大師の法話をはじめ、坐禅会も行

われました。これを機に若冲とともに、日本の宗教や文化の理解が深まることを期待したいと思います。

また本派第四教区では若狭出身の釈宗演禅師の百年の遠諱法要が本派第四教区長福寺において、同じく横田南嶺老大師導師のもとに営まれ、第四教区をあげて幕末から明治にかけて活躍した、同地域出身の禅僧の事績を讃える記念事業が催されました。法要に出席して、この遠諱事業の成功に大変大きな意義を感じるとともに、本山として皆さんの努力に敬意を表する次第です。幕末から明治にかけて、御一新の嵐を駆け抜け、日本の近代化と仏教の近代化という大きな課題と格闘し、影響をあたえた禅僧は、相国寺の荻野独園禅師をはじめとして数多くおられますが、その事績をたどることは明治百五十年

の節目を迎えるこの時期に、時節を得た意味のある企画でありました。

さて本年も引き続き相国寺派の発展を期し、諸改革を進めて参りたいと思います。おかげをもちまして長年の懸案事項でありました、宗制の改正及び関連諸規則の改正がそれぞれの諸会議の審議を経て承認されました。諸会議の終了後、所轄庁の認証が必要な相国寺規則及び特殊寺院の規則変更の認証申請の書類を遅滞なく提出し、受領されました。今後も檀信徒の皆様とともに相国寺派寺院の健全な運営と発展のために力を尽くして参ります。

本年も実り多き年でありますよう、皆様のご健康とご活躍を祈念して新年のご挨拶といたします。



有馬頼底管長猊下をはじめ、本派寺院御住職、相国会員、檀信徒のみなさま、新年おめでとうございます。本年も相変りませず、よろしくお願い申し上げます。

去年は、長いこと異常気象が続きました。特に、西日本、北海道をはじめ、日本各地が、台風や、大地震など、言語に絶するほどの自然災害に見舞われました。たくさんの方が、犠牲

となりました。改めて、心からご冥福をお祈りいたします。被災された方々には、たいへんな困難な生活を強いられておられることと思います。一日も早い復興を願わずにはおられません。

昨年十月二十一日、相国寺法堂に於いて、開山夢窓国師每歳忌法要が厳修されました。厳修円成後、信徒一同で『般若心経』に続き『白隠禅師坐禅和讃』を諷経しました。禅師は平易な日本語で、禅の真髓をお示し下さいました。「衆生本来佛なり。衆生の外に佛なし。当所即ち蓮華国。此の身即ち佛なり。」全員、熱く読誦しました。一同、「感動」と「喜び」とをもって帰路につかれたに違いありません。感謝です。

一月十六日、大拙大和尚大士忌（二十五回忌）法要が厳修されます。私は新採の高等学校で三年生の「漢文」を担当しました。新米教師を、試そうと質問連発、しばしば立往生しました。丁度その頃、梶谷宗忍禅師（後、相国寺管長。僧堂の師家になられた漢詩文の大家。）が京北町山国（現京都市右京区）で御住職をしておられました。私は、学生時代、叔父片岡仁志（京大教授・居士）の書生として相国僧堂の延寿堂で居候をしていた時、禅師は僧堂の侍者寮の寮頭をされており、私は、いろいろ御指導をいただきました。

そのご縁で、厚かましくも、土曜日の午後、自転車で教えを乞うため押しかけました。私が、愚痴っぽく現状を話すのを「うん、そうか」「ああ、そうか」と云われるだけ。やがて、すっ

と庭に降り、隣の檀家との境の垣根につながれている山羊の腹の下に、ちよこんと坐って「ちゅちゅ」と乳を搾りはじめました。「これはうまいぞ」「ほれ！」と搾りたてをマットに分けて下さり、二人で飲みました。味は、忘れましたが、あの時の御老師の深く、あたたかい「慈顔」は、今もって彷彿として眼前に浮かんできます。飄々とした温容に接して、私の胸の支えは雲散霧消。帰りに一言「わからないものは、わからない。誤魔化さずに、正しいことを教えなさい。」と「金言」をいただいて帰りました。その後、不思議と「自信」をもって教壇に立つようになりました。

今回の法要に際しまして、御老師の御報恩に改めて、謹んで感謝申し上げる次第です。

フランス・パリ プティ・パレ美術館

(巻頭カラー2ページを参照)

「若冲——動植綵絵」を中心に「展開催

二〇一八年より十九年にかけて日本とフランスの両国は、日仏友好一六〇年を記念した「ジャポニスム二〇一八」という様々な複合型イベントが展開中である。

その目玉の一つとして、二〇一八年九月十五日から十月十四日までパリにあるプティ・パレ美術館において、伊藤若冲の最高傑作とされる相国寺所蔵の「釈迦三尊像」と現在宮内庁所蔵の「動植綵絵」三十幅を合わせた計三十三幅が、欧州では初めてとなる大規模な「若冲展」として公開された。

会期に先立つ九月十一日より、若冲展オープニング式典・法要のため、相国寺より有馬頼底管長と共に、佐分宗順宗務総長、山本雅晶財務部長、澤宗秀林光院副住職、平塚景山承天閣美術館参事が七日間の日程で訪仏した。

開会式前には、日本より皇太子殿下もご内覧になり、有馬管長案内の中、熱心にご鑑賞された。フランスにおける若冲の知名度はまだまだ高くはないものの、卓越した若冲の技法に、作品をご覧になった欧州の方々からは感嘆の声が上がっており、若冲の最高傑作を直接鑑賞していただけるよい機会になり、若冲に対する関心の深さ、日本の文化を感じたいという関心の高まりを感じる法要になった。

台湾臨濟禪寺にて開山耆百年遠諱法要

(巻頭カラー4ページを参照)

八月三十一日、台湾の臨濟護国禪寺(台北市中山区)において開山の梅山玄秀老大師耆百年遠諱が厳修され、妙心寺山内靈雲院(京都市右京区)の則竹秀南老大師より拝請があり、有馬頼底管長が日本側の法要導師を務められた。

臨濟禪寺は、日本統治時代の明治四十四年(一九一一)に梅山老大師(得庵)や則竹玄敬師らの尽力により伽藍が完成、翌年落慶法要が厳修された。その後、山崎大耕老大師(のちの相国寺第四世管長。無為室。一八七五—一九六六)も臨濟禪寺住職を務めており、その法縁が相国寺にも有る。有馬管長にとっては平成二十年の同寺修復落慶法要などに続いての訪問となった。日本統治終了後は、中国人僧が住持しており今日に至っている。

当日は、境内の仏殿「大雄寶殿」に中国側導師の淨心長老と共に入堂し、開会の辞、記念品贈呈、両国挨拶、台北市長挨拶(代読)などに続き、先に日

本側の法要、次いで中国側の法要が行われ、両国の僧侶六十名、両国の在家信者四十名が列席した。その後、境内の弥陀殿において出齋(中国式精進料理)がふるまわれた。江上正道師(眞如寺住職)が随行した。

法要香語は左の如し。

香 語

得庵玄秀大和尚耆百年

唱来一種没絃琴 一種唱え来つて、没絃琴

一百年前古仏心 一百年前、古仏の心

弄行豈圖成拙了 行を弄す、豈に圖や拙了と成す

高山流水累聆音 高山流水、累て音を聴く

頼底九拜

定中昭鑑

第二十六回 相国会本部研修会 日程

11月6日(火)

13時	登山、諸説明(大書院)
13時30分	開講式(表方丈)
	①般若心経・消災呪・本尊回向 大悲呪・開山回向
	②佐分宗務総長挨拶
	③抹茶茶礼(抹茶・鎌餅)
	④四弘誓願文
	有馬管長猊下御垂訓(終了後 記念撮影)
14時15分	坐禅(30分×2回 イス坐禅可 休憩有り)
15時30分	本山事務棟2階講堂 講演 講師 相国寺承天閣美術館学芸員 本多潤子氏 『承天閣美術館の歴史と寺宝』 本山出発 17時30分 薬石(懇親会) 右京区内にて 開浴(入浴) 21時 就寝(大書院・本山寺務棟2階和室) 22時

11月7日(水)

6時	開静(起床) 洗顔、寝具片付け等
6時15分	朝課(表方丈)
	般若心経・消災呪・本尊回向 大悲呪・開山回向・四弘誓願文
6時30分	坐禅(20分×2回 休憩有り)
7時15分	粥座(朝食)、粥座後書院掃除・片付け
8時	閉講式(表方丈)
	①大悲呪・開山回向
	②宗務総長挨拶
	③修了証授与
	④四弘誓願文
8時30分	課外研修出発 三十三間堂(蓮華王院) 拝観(東山区)
9時	臨濟宗東福寺派大本山東福寺 特別拝観 (東山区)
10時30分	齋座(昼食) 南区内にて 順次解散
12時30分	

第二十六回 相国会本部研修会 参加者(教区順・敬称略)

教区	分会名 (菩提寺)	参加者
第二教区	長遠寺	平野 安彦
第二教区	長遠寺	尾崎 拾次
第二教区	長遠寺	石田 あけみ
第二教区	大應寺	波多野 外茂治
第二教区	是心寺	福井 長義
第二教区	桂徳院	山本 壽典
第二教区	智蔵院	岡本 弥一郎
第二教区	無礙光院	山貫 良治
第二教区	無礙光院	岡村 雅實
第二教区	無礙光院	上谷 誠一
第二教区	無礙光院	田中 立美
第二教区	大雲寺	平井 國晴
第二教区	大雲寺	平井 精一
第二教区	大雲寺	川勝 基平
第二教区	福圓寺	土倉 忠彦
第三教区	少林寺	岸部 優男
第四教区	真乗寺	松井 章
第四教区	妙祐寺	榎本 保

教区	分会名 (菩提寺)	参加者
第四教区	正善寺	松岡 稔
第四教区	南陽寺	嶋田 直樹
第四教区	長福寺	澤田 拓郎
第四教区	長福寺	樋江 井覚
第四教区	圓福寺	伊藤 彰
第四教区	壽奎寺	米津 正訓
第五教区	靈雲寺	原 泰男
第五教区	萬福寺	鐘築 薫
第五教区	西光寺	飯塚 明輝
第五教区	西光寺	大森 佳幸
第五教区	東光寺	勝部 和美
第五教区	富田寺	中尾 隆
第五教区	富田寺	中尾 芳幸
第五教区	富田寺	中尾 芳幸
第五教区	西光院	石飛 廣
第五教区	保壽寺	高嶋 之和
第六教区	通天寺	塩川 勝則
第六教区	通天寺	池村 正

仙道定款

大通院
相国寺専門道場師家

小林玄徳

仙道定款

—YOUR GUIDE FOR
DEATH EDUCATION—

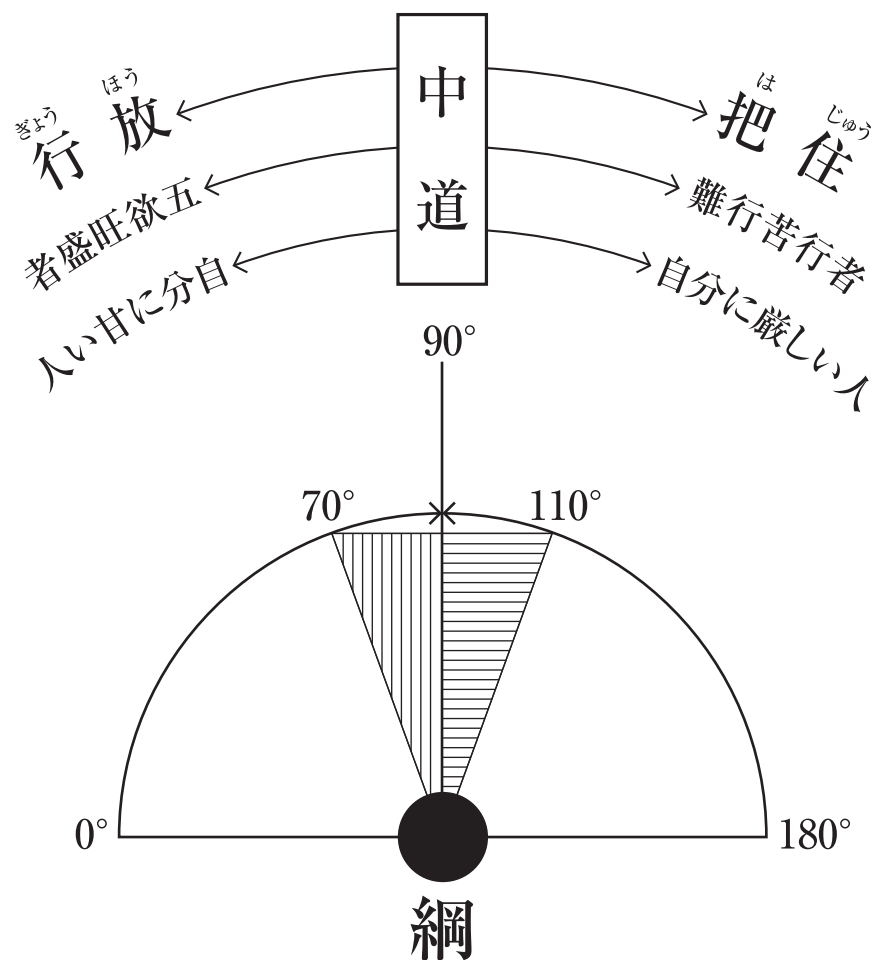
第九条 綱渡り

仏道を歩むに最善の方法は、中道を歩むことである。
それはサーカスの綱渡りの様なもの。

常に水平に対して90°の位置に自分を置いて進むことが、
綱を無事に渡り切るための理想的な教えである。

人生の綱渡りでは、左右に揺れながらも、棒を巧みに使って
バランスをとりながらどうにか無事に渡り切ること。

ときには油断して欲望に負けて70°迄左に傾き冷汗をかきつつも、
転落しなければ、それで中道の許容範囲。



ときには、調子に乗って頑張り過ぎて90°を越えて右に110°迄傾いても、そこで気付いて墜落を防げばそれで立派に中道。

中道とは、この70°～110°の範囲を臨機応変に、手持ちの持戒棒を調御しながら仏道の人生を歩む修行方法である。

「仏法」中道

釈尊が六年間の難行苦行をして居られた最後の頃、衰弱しきった身体は、尼連禪河での沐浴の折、足をすべらせて河に転落してしまったのである。河下で釈尊を助け上げて、乳粥を供養して尊い御命を済い、体力氣力を回復させたのが近くの村の村長の娘（スジャータ）である。

このスジャータの家で看病してもらっている頃、遠くから若者の歌声が釈尊の耳に響いてきたのが『弾琴の詩』である。

「琴の音は、弦を強く張れば聞き心地悪く。

また琴の音は、弛み過ぎれば良い音にならず。

琴の音は、中程に張りてぞ妙なる響きなり。」

この因縁に依って難行苦行の誤りであったこと、そして修行と仏道は中道に依ってこそ成就できることに気付かれて忽一週間の臘八大接心に臨まれて悲願のお悟りを開かれた訳であります。

中道はいかにも簡単な様に聞こえるが、実践は大変難しいものである。それは一般には図の左側へ70°を超えて傾いて行く性質であり、本能的欲望には盲目の如くに甘いからである。お釈迦様の六年間の難行苦行は命を落す手前ですから、右側へ170°も傾いて居られたと判断できます。

修行道場の大接心の規矩は図の右向の把住と図の左向の放行とが適切に組み込まれていて、図の中の斜線部分、即ち中道の（あそび空間）・（余裕空間）を会得するには優れているのであります。

読者の多くが在家の仏教信者であると思います。居士、大姉、在家の信者の立場で、相国寺僧堂の大接心に参加して、中道の修行方法を修得すべく、足実地を踏む底の体験を積んでもらいたいと切に願うところであります。

お詫びと訂正

『円明』第一一〇号14頁9行目に左記のとおり誤りがありました。
訂正してお詫びいたします。

（誤）一時避難 ↓ （正）一時避難

相国寺の庭園

第五回

大書院小書院の庭園

植昭 長岡造園 長岡 秀晃

書院庭園。普段の拝観では公開されておきませんので、少し皆様にとっては馴染みの薄い場所かもしれませぬ。書院は東側の大書院と西側の小書院に分かれており、その両方に面して庭園が造られています。今回はこの「ふたつでひとつ」の庭園をご紹介します。

弊社は二〇〇四年に大書院庭園の改修工事並びに小書院庭園の解体・新設工事を行いました。

大書院庭園では既存樹木の整理や地割の手直し等を行い、景石や石灯籠といった「見せるべきもの」をきっちりと見せる形に再整備しました。ここには大きな石灯籠が一基据えられているのですが、この灯籠には小川治兵衛(植治)の銘



大書院庭園

が入っています。近代庭園の先駆者といわれる小川治兵衛が何らかの形で作庭に関わっていたのかもしれない。

小書院庭園は主木となる一本の大きなモミジを残し、ほぼすべての樹木を取り除きました。その後「宝塔(松風)と七五三石組みの庭」を作庭しました。石組みは、神仙蓬莱島に向かい往来する船団が、列を成して港に停泊する姿を抽象的に表しているもので、直線的に石が配置されています。また、古来からの奇数を尊ぶ思想に基づき、七・五・三という陽の数の景石を用いて、福寿世界を庭園に表してあります。宝塔は「松風」を呼ばれる型で、千利休の墓



小書院庭園

石の写しの逸品です。七五三石組みに使用している石は貴船石(賀茂七石と呼ばれる京都の名石のひとつ)で、苔むして寂びた様は何十年・何百年とそこで時を過ごしてきたように見えます。作庭から時間も経ち、今では前述したモミジの種から育ったモミジも数本育ち、庭に彩を添えています。

両書院庭園は作庭時期や謂れに違いはありますが、両方を一度に見渡してみると、不思議なことに全体としては一つの庭として調和が取れています。この答えは、杉苔で出来た大きな築山と砂利にあります。築山というのは、地面に起伏をつけて、平らな場所との違いを出した部分のことで、名前の通り山を表現したり、島を表現



渡り廊下から見る「春日灯籠」

し、入江や半島の様な出っ張りを表現したりします。平らな部分の「静」と起伏の「動」この両方があることで庭が単調にならず、奥行きが出てきます。両書院庭園は杉苔の「築山」でつながれており、その周りに撒かれている砂利も同じ安曇川砂利です。庭の「足元」にあたる部分に共通の物を使うことにより、両書院庭園は違和感なくつながれ「ふたつでひとつ」の庭園として見る事ができるのです。

大書院と小書院をつなぐ渡り廊下に面した場所には、両庭園とは違った雰囲気のアクセントとして、瓦と菊炭から成る雨落ちで囲われた枯山水形式の小庭を造り、その中央に浮き立つように春日灯籠を配してあります。一見両庭園の調和を乱してしまいうようなこの枯山水ですが、大書院と小書院の間の窪んだスペースにあり、渡り廊下を通る時にだけ見える造りになっています。

両書院庭園は樹木の維持管理方法も異なっています。大書院庭園は黒松やマキ、椿といった常緑樹が多く、樹木に近い場所に据えられた石材も多いため、大きくなりすぎないような剪定を心がけています。一方、小書院の庭園にはモミジ（落葉樹）が主で、石材を隠すような場所に植わっているわけでもないので、新緑や紅葉を出来るだけ楽しんでいたために、必要な部分以外にはあまり手を入れず、さらっとした雰囲気仕立てています。

異なる要素の多い庭園も、見せ方ひとつで違和感なくひとつの物として見る事が出来る。そんな「庭師の知恵」が皆様に少し伝わっていれば幸いです。

「しあわせの杖」

演劇塾 長田学舎 粟津もと

みやこおばさんは、いつも杖をついて歩いています。身体の骨がくずれていつて、形が変わって行く病氣をもっているのです、歩くのが不自由だからです。外を歩く時はもちろんのこと、家の中でも杖をついています。

みやこおばさんはその杖を、それはそれは大切にしています。だって、自分の脚と同じだけの仕事をしてくれて、身体を守ってくれているのですから。それともう一つ、その杖には特別の思いをもっていました。

みやこおばさんの杖を見ると、誰もが口をそろえていいました。

「いい杖をお持ちですね」

「すてきな形のおしゃれな杖ですね」

そのたびにみやこおばさんは嬉しそうににこにこ笑って

「ありがとうございます」

といって、杖をやさしくやさしくいとおしむようになってるのでした。

みやこおばさんの杖は形のいいすてきな杖でした。一本の木をくりぬいてけずった、つぎ目がどこにもない、細くてとても軽い杖なのです。指で握る頭のところは美しい曲線を描いていて、腕にかけると、ぴたっと吸いつくように腕になじむのです。

この杖がみやこおばさんのところへ来たのは、みやこおばさんが骨の病氣になって、人工関節を入れる手術をした時でした。仲よしのお友だちのお母さんが、お見舞いにとどけて下さったのです。みやこおばさんは杖を初めて見た時、思わず抱きしめました。みやこおばさんの眼には涙があふれました。子どもの頃にお母さんを亡くしたみやこおばさんは、お母さんのやさしさ、あたたかさを思い出したのです。

みやこおばさんはその杖を大切にしました。まるで自分の身体の一部のように思っ、いとおしました。上手に持てなくて床の上や土の上へ倒してしまった時など、あわてて持ちあげて

「ごめんなさい。ごめんなさいね。痛かったでしょう」

とやさしくなでるのでした。

夜、寝る前には、必ずよごれたところはぬれた布で拭きとり、その後、乾いたやわらかい布ですみずみまでいいねいに拭きながら

「ありがとうね、おつかれさまでした。今日も守ってくれて、安心して歩けました。ほんとうにありがとうございました。朝までゆっくりおやすみなさい」

そういって、ベッドの枕元の所に立てかけるのでした。

ある晩、みやこおばさんは夢を見ました。

『みやこおばさん、みやこおばさん』耳もとで女の声がしました。見るとみやこおばさんの杖がのぞき込んでいるのです。杖がいました。

『ごめんなさいね、起こしてしまつて。いつもあたしを大切に下さつてありがとう。とてもうれしく思つてゐるわ。ほんとうにありがとう。あたしね、天国にいらつしやるあなたのお母さまにたのまれてゐるの。お母さまはあなたのこと、とても心配なさつてゐるころんで怪我などしないように、そばにいて助けてやつて下さいね。』とおっしゃつたの。お母さまはいつあなたを見守つてはいらつしやるけど、あなたのそばにはついていられないからね。ほんとにいいお母さまね。

あたしの母はねえ、銀杏の木。しつかりした強い木だった。

あたしが大きくなつて、材木屋さんのお店に並んでいたら、杖づくりの名人といわれているおじいさんがやつて来て、あたしを見るなりたたいたり撫でたりして、そしてとても満足した顔でいったのよ。

「これはいい木だ。いい杖になつてくれるぞ」

そういつてえらんで下さつたの。

おじいさんは今までにかぞえきれないくらい沢山の杖を作つてこられた

のよ。あたしはその中の一本。おじいさんはね、杖を作る時いつも

「いい杖になつてくれよ。杖をつく人の力になつて、助けをして、しっかりと守るんだぞ」

そういつて自分の魂を注ぎ込んでられるの。だからあたしには、みやこおばさんのお母さまの心と、お友だちのお母さまの心と、杖づくりのおじいさんの魂がこめられてゐるの。



この三つがあたしの生命になってるの。だからあたしはこれからもずうつとみやこおばさんを大切にして、守っていきますからね。安心していて下さいね——。

みやこおばさんは目をさしました。枕元でのぞき込むように立てかけてある杖を見ました。杖はいつもと変わらず静かに眠っているようでした。みやこおばさんは杖がお話してくれた夢を見てから、今までよりも一層杖を大切にしました。自分を守ってくれているお守りだと信じて感謝の心で杖についていました。

みやこおばさんは日に日に元気になっていきました。杖をつかなくても少しずつ歩けるようになりました。それでも杖はいつもついていました。

ある日、みやこおばさんは電車に乗ってお買い物に出かけました。乗客の少ない時間だったので、ゆったりと座席にすわり、杖を座席の手すりにかけて、手さげ袋から本をとり出して読みはじめました。小鳥の愛らしいたのしいお話でした。夢中になって読んでいて、降りる駅に電車が着いたのに気がつきませんでした。ドアが開いて、駅の名前をいっているアナウンスが聞こえて来ました。

「あつ、降りなきゃ……………」

あわてて立ち上がり、本と手さげ袋をかかえて急いで電車を降りました。ホームに降りた瞬間、杖を持ってないことに気がつきました。



「あつ、杖……」

けれど、電車はもう走り出していました。声が出ませんでした。頭の中がからっぽになって、目の前が真っ白になり、胸はドクドク音をたてて波うつてゐるのです。

「どうしよう……どうしよう……」

みやこおばさんはホームに立ってオロオロするだけでした。

やっと心が静かになって、おちつきをとりもどしたみやこおばさんは、駅の改札口へ行き

「今の電車で杖を忘れてしまいました。すぐに連絡していただけませんでしょうか。おねがいします。私の大切な杖なのです。おねがいします。どうぞよろしくおねがいします」

拜むように掌を合わせて、何度も何度もおねがいました。

その夜、みやこおばさんは眠れませんでした。杖にあやまり続けました。「ごめんなさい。ごめんなさいね。私が悪かった。悪うございました。あなたを忘れてしまうなんて、ほんとうに申しわけございませんでした。早く帰って来て下さい。待っています。一日も早く帰って来て下さい。きつときつと帰って来て下さいね」

一日、二日、三日……五日と過ぎました。みやこおばさんは杖を待ち続けました。けれど、どこからも杖が見つかったという嬉しい知らせは来ませんでした。

みやこおばさんは泣きました。泣き続けました。悔やみ続けました。あやまってあやまってあやまり続けました。

何日かたちました。みやこおばさんは泣かなくなりました。顔色も明るく、元気になって来ました。

みやこおばさんは毎日あの杖に話しかけていたのです。

「あなたは今、どこにいるの。きつと脚の悪い人のそばにいますのしょうね。あなたを一度持つとずうっと持っていたくなるはずですね。あなたはその人を助けて、守ってあげているのしょうね。その人の身体はとても楽になって、喜んでられるのしょうね。きつとあなたのおかげで毎日毎日がたのしく過ごせて、とても幸せだと思つてられるのしょうね。それでいいの。それでよかったと思つています。あなたのおかげで、私一人だけじゃなく、もう一人毎日が幸せだと喜ぶ人がいらつしやるんですから、こんな嬉しいことはありません。いつまでもいつまでもその人を助けて、守って

あげて下さいね。私はあなたとの素敵だった思い出を大切にしていきます。
ありがとうございます。ありがとうございました——。」



おさだ塾自主公演のお知らせ

『春の小さな劇場』

公演日／平成三十一年三月二十二日(金)・三月二十三日(土)・三月二十四日(日)
問い合わせ先／おさだ塾 電話・FAX(〇七五)二二一〇一三八

於・般若林(相国寺北門前町)

※おさだ塾の自主公演は、秋の「町かどの藝能」と「春の小さな劇場」です。秋の公演の舞台は般若林のお庭ですが、春の公演の舞台は、おさだ塾の稽古場です。小さな劇場ですが、俳優の息遣いが感じられる、臨場感あふれる劇場です。内容は、誰もが無条件で楽しめ、そして清潔な感動を通して、その余韻の中から何かを考えさせられる演劇を理想とするおさだ塾のオリジナルの現代劇です。

本山だより (平成三十年八月～十一月)

○第六十五回 暁天講座

八月二日、三日の二日間、第六十五回暁天講座を開催した。両日とも例年通り、五時半受付開始、六時より坐禅、六時四十五分より講演。その後、大書院では七時半から粥座があり、参加者一同作法に従ってお粥をいただいた。

本年の講師は、初日に国際文化研究センター助教の呉座勇一氏が「応仁の乱と相国寺」、二日目に有馬管長が「東西文化の交流」という演題でそれぞれお話いただいた。

呉座氏は相国寺が激戦地になった『応仁の乱―戦国時代を生んだ大乱(中公新書)』の著者でもあり、これまであまり詳しく触れてこられなかった戦の詳細、人物の相関関係、十一年にも及んだ内乱を新たな視点も交えてわかりやすくお話しいただいた。



有馬管長法話



早朝より坐禅する参加者

有馬管長は、一昨年のバチカン市国でのローマ教皇謁見以降、昨年の各国への訪問を通じて、文化と宗教の関わりやその重要性、また仏教が果たす役割を、ユーモアを交え語られた。連日異常な暑さを記録していたが、両日とも早朝より多数の参加者があり、大変盛況であった。

○室町小学校坐禅会

九月十二日室町小学校六年生の坐禅体験があり、学童三十九名、引率者二名が参加した。この坐禅会は平成十五年から毎年行われており、当日は矢野教学部長と荒木参務が指導にあたった。矢野教学部長歴史解説に続き、坐禅を体験した。その後法堂と方丈を拝観し無事下山となった。

○三十年度 秋期特別拝観

九月二十五日より平成三十年度の秋期特別拝観を行い、法堂、方丈、開山堂が十二月十五



吳座氏講演

日まで一般に公開された。

春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日まで、公開場所は法堂、方丈、宣明（浴室）の予定である。

○第三十八回 寺院婦人研修会

十月十六、十七日の両日、第三十八回相国寺派寺院婦人研修会が行われた。初日は午後十二時半参集、一時より方丈で本尊・開山各諷経後、佐分宗務総長より開会挨拶、有馬管長より訓示をたまわった。記念撮影後、大書院にて坐禅を行った。

その後、寺務棟二階において承天閣美術館の高橋範子副館長を講師に、「筆墨のメッセージー 承天閣美術館名品探訪」という題で、講義をたまわった。

翌日は朝の修了式後、嵯峨釈迦堂清涼寺（京都市右京区）特別拝観、引き続き松尾大社（同西京区）の特別参拝をした。

今回は以下の教区より次の十五名が参加した。

◇参加者名簿（教区・台番順）

第一教区 澤 万里子・澤 洋子（林光院）

山木佐恵子（普廣院）

久山順子（慈照院）

荒木寛子（光源院）

草場容子（慈雲院）

佐分厚子（豊光寺）

平塚久恵（養源院）

第二教区 和田真弓（是心寺）

鈴木典子（長栄寺）

第四教区 田中温子（円福寺）

石崎典子（海岸寺）

五十嵐多賀子（善應寺）

第六教区 矢野志保（南洲寺）

芝原由紀子（感應寺）





○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、秋晴れのもと十月二十日(宿忌)、二十一日(半斎)の両日にわたり厳修され、第四教区若狭より一四〇名(寺院十名を含む)、第五教区出雲より四十一名(同寺院一名)の相国会会員の団体参加があった。

二十一日は、九時より法堂において小林老大師導師のもと猷粥諷經にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、総代、本派寺院、天龍寺一山、臨済宗黄檗宗各本山、他宗派寺院の順に入堂し、管長導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。続いて、開山塔(開山堂開山像真前)にて諷經がなされ終了した。

また法堂では相国寺総代、相国会长や同会員、檀信徒ら列席者と教学部で共に「般若心経・白隠禪師坐禪和讃」諷誦を行い、代表者には焼香をしていただいた。



高橋承天閣美術館副館長の講義



佐分総長と諷經する参加者

管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

家法嚴伝乃祖禪 家法嚴に伝う、乃祖の禪
拳来踢報踢来拳 拳来れば踢もつて報い、踢来れば拳
一枝攀折菩提樹 一枝攀折す、菩提樹
熱向鑪中颺毒煙 鑪中に熱向して、毒煙を颺ぐ

頼底九拜

定中昭鑑

○臨済宗青年僧の会開催

十月二十五、二十六日の両日、相国寺ならびに承天閣美術館二階講堂を会場に、臨済宗青年僧の会(事務局・静岡市)主催の第二十八回住職学「現代の衆生無辺誓願度」が開催された。初日には有馬管長の提唱「禪の広い生き方」、漢方専門医の桜井竜生氏の講義「東洋医学の知恵」が、二日目は小林老大師の提唱「臨済録」、文筆家の小出遥子氏の講義「仏教ファンという生き方」がそれぞれおこなわれ、

会員の僧侶や宗門関係者が出席した。



小林老大師提唱



桜井竜生氏講演



小出遥子氏講演

において開山夢窓国師毎歳忌半斎法要が厳修され、相国寺より佐分事務総長以下計十名が出頭した。

○第二十六回 相国会本部研修会

十一月六日より七日まで、第二十六回相国会本部研修会が行われた。同研修会は二年に一度の開催で、今回は第二教区十五名、第三教区一名、第四教区八名、第五教区九名、第六教区二名の総勢で三十五名が参加した。開講式、諷経、佐分総長挨拶に続き、管長猊下による垂示があり、教学部指導のもと坐禅を行った。その後、承天閣美術館の本多潤子学芸員により『承天閣美術館の歴史と寺宝』という演題で講義をしていただいた。

翌日は起床後、朝課(勤行)、坐禅、粥座、閉講式を行った。またこの日は三十三間堂で知られる蓮華王院(京都市東山区)を拝観、続いて京都五山の一つ大本山東福寺(同東山区)を特別拝観した。その後斎座(昼食)をとり、無事

○天龍寺開山忌

十月三十日、京都市右京区の本山天龍寺

散会となった。次回の研修会は、二〇二〇年に開催の予定である。

(巻頭カラー6ページ・本文26ページを参照)

○有馬管長 曹洞宗「禅をきく会」で講話

十一月九日、曹洞宗の北海道管区禅センターの依頼により、「第三十二回 禅をきく会」の講師として有馬管長が招かれた。当日は札幌パークホテルを会場に、「東西文化交流」という演題で積極的に行っておられる仏教を通じて世界各国との交流について、ユーモアを交えて話された。会場には北海道をはじめ各地より曹洞宗僧侶、檀信徒をはじめとする多くの参加者が集まった。江上参事が同行した。

○臨時宗会

十一月十六日、宗制ならびに関連諸規定改正の件で臨時宗会が開催され、各教区より宗議会議員が登山し、審議のうえ承認された。



札幌で講演される有馬管長

坐禅会のご案内

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、經典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場…相国寺 本山大書院

時間…午前九時より十一時迄

内容…坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点…当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。(電話〇七五―二三一―〇三〇―)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀…服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、

スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

東京維摩会

本年の開催日は左記の通りです。

会場…相国寺東京別院 方丈・客殿

有馬管長坐禅会

一月十九日(土)、二月九日(土)、三月九日(土)、四月十三日(土)、五月十一日(土)、六月八日(土)、

七月十三日(土)、九月十四日(土)、十月十二日(土)、十一月十六日(土)、十二月十四日(土)(八月は休会です)

時間…午前十時半より正午頃迄

内容…『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

注意点…五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀…服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、

スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

小林老師坐禅会

一月二十六日(土)、二月十六日(土)、三月三十日(土)、四月二十日(土)、五月十八日(土)、

六月十五日(土)、七月二十日(土)、八月二十四日(土)、九月七日(土)、十月十三日(日)、十一月九日(土)、十二月二十二日(日)

時間…午後一時より二時半迄

内容…『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

注意点…五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀…袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺東京別院(電話〇三三四〇〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿
〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

教区だより

第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講大峰山入峰、

竹生島 厳金山宝蔵寺参拝

毎年六月に大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第壹号連山組は本年は講員四十六名と減少したが、昨年六月毎年のように入峰修行を無事終えた。

平成三十年六月八日午前九時より、光源院行者堂に於いて前行を行い、道中安全、家内安全の祈願を役員及び、今回で七回目の入峰をされる院号授与者の他、多数の参拝者と共に行う。翌日九日早朝六時堀川今出川を大型バス一台で新緑の大和路を一路奈良県吉野郡天川村の洞川^{どうがわ}に向かう。十時半宿泊所になる洞川西村清五郎指定旅館到着、早めの昼食手弁当を取り直ちに入峰に向かう。晴天

に恵まれて、入峰日和で新客を先頭に山上に向かう。

最初の行場「西の硯」も事故無く無事に終える。新客は裏行場へ、他の者は本堂に向かう。新客の行を終え、全員揃った所で勤行を行う。参詣後、各自全員無事下山し、夕食後旅館にて宿泊する。翌十日は午前五時半起床、六時に龍泉寺水行場に於いて新客と共に般若心経を唱えながら水行を行う。終って西村旅館にて朝食をとり、全員龍泉寺へ参拝後洞川を出発する。バスにて近江路へ向かい昼食後、今津港より竹生島に渡り観音霊場三十番厳金山宝蔵寺に参拝、その後雄琴「緑水亭」にて小宴、午後七時三十分同所を出発し、一路京都に向かう。午後八時三十分堀川今出川に帰着、全員万歳三唱して目出度く解散した。



「京都十三仏霊場」加盟寺院が出頭して厳修された合同法要 撮影：柴田明蘭氏

会持ち回り合同法要の当番寺院となり、当日は秋晴れのもと檀信徒一二〇名が参集した。有馬管長入堂の後、矢野住職導師のもと十三仏霊場会より真言宗の智積院、戒光寺、泉涌寺、平等寺、大報恩寺、仁和寺、随心院、東寺、法輪寺、浄土宗の清涼寺が参列、また臨済宗からは天正寺（佐々木契堂住職）、豊光寺（佐分昭文副住職）、林光院（澤宗秀副住職）、妙心寺派観福寺（足助厚堂住職）が出頭し、読経、十三仏回向、檀信徒総供養に引き続き、参加者全員で十三仏全真言を唱えた。

○鹿苑寺参拝者休憩所等落慶法要

十月二十三日、鹿苑寺において境内各所に整備していた参拝者休憩所、東司（お手洗い）などの修復工事が終了し、同寺住職である有馬頼底管長を導師に落慶法要が執り行われ、本山一山和尚、鹿苑寺御用達業者が列席した。法要後には休憩所内覧があり、続いて京都市内のホテルにて祝宴が催された。



大峰山 厳金山宝厳寺 平成30年6月9日入峰 連山組 46名

○慈照院先代住職寺院逝去

十月一日、慈照院（久山隆昭住職）の先代住職（故久山忍堂師）寺庭の久山二葉氏が九十七歳で亡くなられた。長年に亘り寺院護持に勤められたが、今般疾により加療するも薬石功無く天寿を全うされた。

同五日の通夜・六日の告別式は、小林玄德大通院老大師導師のもと執り行われ、本山一山和尚、親族、関係者が出頭、参列し故人をしのんだ。

○大光明寺「京都十三仏霊場会」合同法要

十月十三日、大光明寺（矢野謙堂住職）において、京都十三仏霊場会合同法要と大光明寺護持会、大光明寺静原講中の総供養が厳修された。

大光明寺は、有馬頼底先代住職の頃より「京都十三仏」第四番札所（本尊は普賢菩薩）になっており、宗派を超えて信者のお参りが絶えない。今回は数年前から始まった霊場

今後は、境内参拝者にむけて、より効果的な利用が期待される。

第二教区

○第二教区相国会支部総会

六月二日、光照寺（荒木文紹住職・京都府南丹市美山町）に於いて、二十六名が出席して支部総会会合が開催された。当日京都市内からの参加者は、相国寺山内の光源院前に集合し、マイクロバスに乗車して美山町へと向かった。光照寺本堂にて全員で諷経をして総会を行い、一年間の会計報告、事業報告などがなされた。

その後の懇親会は美山町自然文化村内で行い、山の幸を味わいつつ、歓談して親交を深め、半数以上がそのまま宿泊した。翌日は、美山かやぶきの里を散策して、全員無事に帰途に就いた。



法要には相国寺一山和尚、総代、関係者が列席した



焼香する有馬管長



光照寺にて開催の総会参加者

○福性寺第二十世 吉田厚司新住職晋山式

十一月三日、午前十時より福性寺（亀岡市保津町）において、吉田厚司新住職晋山式が挙行された。佐分宗順宗務総長をはじめ第二教区各寺、縁故寺院、龍澤僧堂同参僧侶の御尊宿方の御随喜を賜り、総代、檀信徒の皆様が見守る中、盛大かつ厳肅に執り行われた。式前には新命住職とお稚児さんの行列が安下所より寺の山門までなされ、霧も晴れて、秋の好天に恵まれた。

吉田新命住職は昭和四十八年生まれ、花園大学卒業後、龍澤寺専門道場にて修行された。今後、益々の活躍が期待される。

（巻末カラー99ページを参照）

第四教区

○龍虎寺本堂落慶法要

六月三日、龍虎寺に於いて落慶法要を厳修

ついで協議した。

○宗務支所 研修会

九月十四日、真乗寺に於いて住職研修会を開催した。芳澤勝弘氏（花園大学国際禅学研究所顧問）を迎えて講義を受けた。また、広島県福山市の神勝寺（建仁寺派）より二名出席され、概要について説明を受けた。

○若狭相国会 役員会

九月十九日、真乗寺に於いて開催した。「洪嶽宗演壹百年遠忌」について協議した。

○宗務支所 支所会

九月二十五日、真乗寺に於いて開催した。開山忌団参の参加者の集計等協議した。

○宗務支所 開山毎齋忌団参

十月二十一日、相国会会員百四十名、住職十名、合計百五十名参加。本山法要参拝後、大

した。本山より佐分宗務総長随喜の下、近隣寺院和尚八名、檀信徒多数出席した。

○若狭相国会 役員会

六月六日、真乗寺に於いて開催した。「洪嶽宗演壹百年遠忌」について協議した。

○正善寺 齋会

六月十一日、正善寺に於いて、第十八世慈海和尚五十年遠忌法要を厳修した。近隣和尚六名、檀信徒多数出席した。

○藏身寺 齋会

六月十七日、藏身寺に於いて、第十六世東洲和尚二十五回忌法要を厳修した。近隣和尚四名、檀信徒多数出席した。

○宗務支所 支所会

六月二十九日、真乗寺に於いて教区支所会を開催した。お盆の日程調整、開山忌団参に

徳寺山内大仙院ならびに左京区大原の三千院を参拝した。

○釈宗演禪師「壹百年遠諱法要」

十月二十九日、長福寺に於いて開催した。円覚第二百七世洪嶽宗演禪師壹百年遠諱法要



下院管長横田南嶺を述べ辞式



長福寺本堂で厳修された遠諱法要



若狭相国会会員をはじめ釈宗演禪師顕彰事業に関わった皆様方

を厳修した。円覚寺派管長の横田南嶺老大師導師のもと、禪師ゆかりの鎌倉東慶寺陽司住職、本山より佐分宗務総長、矢野教学部長が随喜された。法縁・派内和尚、相国会会員ほか多数出席し、盛大に厳修した。

(本文67ページ・巻末カラー98ページを参照)

第五教区

○出雲相国会親子坐禅会

七月二十七日、「夏休み親子坐禅会」を富田寺で開催した。親子四十九名、世話人十八名、総勢六十七名の参加があった。

ラジオ体操を行った後、富田寺、西光院両和尚指導のもと坐禅。坐禅終了後、

「白隠禪師坐禅和讃」を唱和し、参加証が子供に渡された。その後、バルーンパフォーマンスがあり、風船のプレゼントもあった。参加者は一生懸命に作り、楽しいひと時を過ごした。



親子坐禅会で坐禅体験する児童たち

釈しゃく宗そう演えん禪師の 百年遠諱を 迎えて

最終回

釈宗演を顕彰する会
第四教区若狭相国会

会長 伊藤 彰

○本山開山忌団体参拝

十月二十一日、例年通り相国寺本山開山忌に
合わせ、団体参拝を行った。参加者は四十名。
前日は、「よしもと祇園花月」観劇を楽しんで
京都市内で宿泊。

当日は、法堂で開山忌に列席した後、方丈で
精進料理を頂き、参加の皆さんが料理を喜んで
召し上がられた。承天閣美術館開催中の「温故
礼讃」展を拝見し、上賀茂神社を参拝して帰路
に就いた。



相国寺開山忌に参拝した出雲相国会一同

昨年の九月十六、十七日に「禅三昧のつどい」、そして十月二十八日に「釈宗演没一〇〇年記念行事」と銘打って、顕彰碑除幕式及び顕彰式・記念講演会を高浜町・高浜町教育委員会と共催で実施しました。

●禅三昧のつどい

在留外国人の方を中心に、日本文化を楽しみながら宗演禅師と故郷高浜を知ってもらうイベントを実施しました。参加者は、午前は高浜中学校生



高浜中学校生徒による英語での紙芝居



整備した「生誕地の碑」

徒による「宗演さん」の紙芝居で理解を深めた後、座禅体験、お茶、琴演奏を楽しまれた。午後は生誕地等宗演禅師ゆかりの地を巡った。このイベントに合わせ、生誕地に元々あった「生誕地の碑」を見やすい位置に移設し、その横に新たに生涯を書いた「略歴碑」を設置しました。

●顕彰碑除幕式

宗演禅師を高浜町の精神文化的な遺産として後世に伝え残すため、高浜町内は元より、全国各地からの寄付と高浜町からの補助金により、高浜公民館の庭に顕彰碑を建立し、鎌倉市から円覚寺派横田南嶺管長猥下及び東慶寺井上住職、生家の一瀬五右衛門家、そして町内外からの多くの来賓を迎え、秋晴れのもと、除幕式を挙行しました。

青緑色の複雑な模様をもった「伊予の青石」で制作された顕彰碑の彫刻文字は横田南嶺管長猥下の揮毫によるものです。顕彰碑の横には碑文を書い



今回建立した「顕彰碑」

た碑を設置し、宗演禪師の偉業・建立の趣旨等を彫り込んでいます。

高浜町のメインストリートに向かって建っており、年間を通じて人通りが多く、通行中必ずや足を止めて、見て碑文を読んでもらえると確信しています。

● 顕彰式・記念講演会

高浜町文化会館大ホールにて、顕彰式として東慶寺井上陽司住職から挨拶をいただいた後、顕彰活動報告や活動に貢献のあった方々への感謝状の授与を行った。その後、横田南嶺管長猥下に、「釈宗演老師を慕いて」との演題で講演をいただきました。その内容の一部を紹介します。



東慶寺の井上住職挨拶

・今や禅は宗教の枠を超えて日本の文化として世界で認められるようになってきた。その禅の根源はこの高浜生まれの宗演禪師から発信されたことを誇りに思っている。

・宗演禪師は「風に逆らいつつ進む」を生涯貫いた人であった。僧でありながら

慶應義塾で英語を学び、スリランカで仏教の原点を極め、日本の仏教会としては参加を見送ったシカゴ万国宗教会議に参加し二回演説された。

この演説がアメリカ人に評価され、帰国後、政財界・文人等が多く参禅・面会し、宗演禪師の思想が日本に大きな影響を与えた。

御釈迦様の言葉で「花の香りは風に逆らいつつ匂わず、されど、よき人の香りは風に逆らいつつ匂う」とあるが、徳のある人は全ての方に香る。まさに宗演禪師がその人である。

・宗演禪師は、生涯において親や故郷を想う気持ちが強く、高浜を懐かしむ和歌を詠まれている。

・人間それぞれ観世音菩薩の現れである。
すなわち「慈悲」と「智慧」と「勇猛心」
この三つの現れである。宗演禪師が目指されたこの心を受け入れ、行動していくことが肝要である。



横田南嶺管長猥下による記念講演

記念講演には第四教区の檀家・和尚様はもちろん、町内外から多くの人が来場し、横田管長の力強く説得力ある講演に聴き入った。高浜町の最近のイベントでは使用していない臨時駐車場もほぼ満車になるほどの盛況でした。

以上にて、顕彰活動の最大の行事が終わりました。お陰様で宗演禅師の生涯や偉業は町民に周知されてきました。

さて、私が宗演禅師を初めて知りましたのは、恥ずかしながら遅く約十年前です。平成二十年の若狭相国会総会終了後に、当時禅文化研究所におられた河野義方師（綾部・寶住寺住職）から「若狭の四禅師」との演題で講演をいただきました。四禅師とは大拙承演、儀山善来、越溪守謙そして宗演禅師ですが、この時には漠然と幕末から明治にかけて若狭から出た高僧の内、一番若い（現代に近い）人だなど思う程度でした。その後、『円明』平成二十一年正月号の有馬頼底管長猥下の御親教の記事で、生誕地の碑に有馬管長猥下、当時の江上宗務総長（現眞如寺閑栖）、佐分教学部長（現宗務総長）が拝塔されている写真を見て、生誕地とその碑の存在を知りました。

平成二十四年六月には、若狭相国会主催で円覚寺、東慶寺に参拝し、当時の東慶寺井上正道住職から宗演禅師の偉業について教えていただきました。書院にパーリ語の軸物が掛けられていたのが印象に残っています。

顕彰活動を開始した約二年前からは、書籍等で宗演禅師について勉強させていただきましたが、学べば学ぶほど宗教の枠を超えて行動された凄い人だとわかってきました。

「凄い」と思うことは多くありますが、一つ上げるとすれば行動力です。西洋化の波が押し寄せる激動の明治期に日本仏教の教え、日本人としての考え方・生き方を説くために国内はもとより、海外に巡錫されました。飛行機が無い時代にアメリカの西海岸・東海岸、ヨーロッパ（イギリス、フランス、ドイツ、オーストリア、イタリア）、インドを回る世界一周の他、朝鮮半島、満洲、中国、台湾にも回られ講演されました。アメリカワシントンではセオドア・ルーズベルト大統領と面談され、仏教が欧米化、キリスト教が東洋化すれば世界平和が訪れると話されています。年の三分の二は巡錫され、法話を聴いた人は数えきれないこのことです。

このような偉大な禅師が、我が相国寺派の長養寺の檀家出身であることを誇りに思うとともに、顕彰活動を一過性のものにせず、微力でも継続していくことが宗演禅師の遺徳に報いることと思っています。

最後に私事ですが、この顕彰活動開始後、亡き父の蔵書の中から『宗演禅師遺芳』と題した冊子が見つかりました。この冊子は宗演禅師五十回忌時に高浜町文化協会が作成したもので、これによると父も当時の顕彰活動に協力しており、今回と合わせ

親子二代に渡って宗演禅師の顕彰活動に携わることができたことに何か不思議な仏縁を感じながら三回の連載を終えます。

(教区だより63ページ・巻末カラー98ページを参照)

釈宗演禅師壹百年遠諱記念『近世若州僧宝伝』

臨済宗相国寺派第四教区発行

本書は釈宗演禅師壹百年遠諱を記念して、禅師と同じ若狭出身の七禅師、すなわち、儀山善来、大拙承演、越溪守謙、的翁恵湛、虎関宗補、洪嶽宗演、絶学文毅といった諸禅師を顕彰すべく、その事績をまとめて出版したいという相国寺派第四教区の依頼を受けて禅文化研究所で制作したもの。『近世禅林僧宝伝』の口語訳と原典、逸話を中心に、芳澤勝弘、衣斐弘行、岩本明美の各氏の論攷、および水上勉氏の一文などを載せる。



特別頒布価格 本体一、五〇〇円＋税
公益財団法人 禅文化研究所より特別頒布

B6判／並製／249頁

特別頒布に付き直販のみ

平成三十年十一月一日発売

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分宗順

【研修会】

宗教団体と宗教法人の区別や、宗制と宗教法人規則の違いを確認し、宗教団体として健全な運営の為に役立つよう、京都仏教会と相国寺教化活動委員会で下記の研修会を開きました。

二〇一八年

八月四日

京都仏教会「宗教と社会研究実践センター」主催のシンポジウム「宗制、宗規とは何か」が、相国寺寺務棟二階講堂で開催されました。

九月二十六日

京都仏教会と相国寺教化活動委員会の共催で、相国寺東京別院において 以下のテーマでシンポジウムが開催されました。

午前の部 「宗教法人の厚生年金加入問題について」

講師 濱村 明氏(厚生労働省 年金局)

洗 建氏(京都仏教会宗教と社会研究実践センター所長)

司会 田中 滋氏(龍谷大学教授)

午後の部 「宗制、宗規とは何か」

講師 長谷川正浩氏(全日本仏教会顧問弁護士)

藤田尚則氏(創価大学法科大学院教授)

司会 田中 滋氏(龍谷大学教授)

これらのシンポジウムの成果をまとめたものを相国寺教化活動委員会の講義録として出版予定です。

【相国寺研究】

●講義録 『慈照寺と無雙真古流』を発刊

井上 治氏

(京都造形芸術大学準教授)著



講座 「相国寺と室町殿・中世社会」

講師 芳澤 元氏

二〇一八年

三月 十五日(木) 第一回 「足利將軍の禅宗入門」(終了)

八月三十一日(金) 第二回 「室町殿の出家と受戒」(終了)

十一月三十日(金) 第三回 「足利義満肖像について」(終了)

二〇一九年

二月 八日(金) 第四回 「在俗宗教論の可能性」

各講座および研修会の『講義録』をご希望の方

は、一冊につき手数料二千円を添え、下記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「活動」・「研修会」・「書籍案内」をご覧ください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話 〇七五一一三二一〇三〇一

FAX 〇七五一一二二三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-ji.jp>)

平成三十一年度(雪安居)

相国僧堂 在錫者名簿

京都(相国) 慈雲院 徒 中山真周
京都(相国) 大通院 徒 鈴木承圓

相国寺史編纂室だより ― 林光院の古文書② ―

相国寺史編纂室では、山内塔頭の歴史史料(古文書・軸物)について調査を進めています。今回は、前回に引き続き林光院に所蔵されている史料についてご報告します。

前回は、関ヶ原の合戦において敗戦し、薩摩に退却する島津義弘を支援したことが縁となり、江戸時代を通じて林光院と島津家との交流が維持されたことを述べました。林光院には義弘の木像と位牌が祀られ、大切にされていたのです。しかし、江戸時代も後期に入ると相国寺全体が財政難となり、林光院でも義弘への供養が困難な状況になりました。

寛政六年(一七九四)七月に、薩摩藩京都屋敷から林光院へ書状が送られました。内容を要約すれば次の通りです。

「妙円寺殿(義弘)の牌前の取り扱いが、はなはだ粗末になっていると聞いている。仏前の掃除もしていないように見える。もはや国元も、この事実を聞き及んでいるかと思われる。今後は牌前の取り扱いを入念にされるべきである」

『万年山聯芳録』によれば、林光院第八世の三甫玄省は寛政二年に鹿苑寺へ移っており、第九世以中玄保が住職に就任したのは寛政十二年です。寛政八年は住職が存在しなかった期間であり、そのために祭祀がなさりになっていたのでしょう。

天保十一年(一八四〇)には、義弘の木像が薩摩に返却される事件が起きています。その際に林光院から薩摩藩に提出された「口上覚」では、①木像を薩摩に返す代わりに、義弘の画像を林光院に納めていただけるとことで了解した、②今回金百両をご寄附いただけたとのことだが、それでは林光院の永続は難しい、③これまで供養として毎年銀十枚をご寄附いただいているが、それに加えて毎年米十石をご寄附されるときにも、遠忌の節には香奠として銀十枚をお供えいただきたいという三点が述べられています。この時期には林光院の財政が相当に厳しい状況になっており、そのことが薩摩藩への寄附の要求につながったと考えられます。

(相国寺史編纂室 藤田和敏)

平成三十一年(二〇一九年)年忌早見表



忌名

没年

一周忌(小祥忌)	平成三十年(二〇一八年)
三回忌(大祥忌)	平成二十九年(二〇一七年)
七回忌(超祥忌)	平成二十五年(二〇一三年)
十三回忌(称名忌)	平成十九年(二〇〇七年)
十七回忌(慈明忌)	平成十五年(二〇〇三年)
二十三回忌(思実忌・念三回忌)	平成九年(一九九七年)
二十五回忌(大士忌)	平成七年(一九九五年)
二十七回忌(念七回忌)	平成五年(一九九三年)
三十三回忌(冷照忌)	昭和六十二年(一九八七年)
五十回忌(五十遠年忌)	昭和四十五年(一九七〇年)

※年忌法要の詳細については、各菩提寺にお問い合わせください。

創業明暦年間  〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352 ゴヨウハシチミヤ 0120-540738 9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00) http://www.shichimiya.co.jp/	夢のある空間づくりのパートナー  トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理 TOTAL DISPLAY FUSHIMI KOHGEI 株式会社 伏見工芸 [本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465 [宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254 e-mail: fushimi_d1.dion.ne.jp
税理士 奥谷 昌雄 税理士 内藤 誠 〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461	<i>Future Active Alliance</i> office やまと パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT環境のトータルアドバイザー 本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13 TEL: 075-311-9009 FAX: 075-311-9494 中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺町29-62 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770 E-Mail: info@office-yamato.net
 寺社の電気、空調、防犯、防災設備 有限会社 土橋電気設備 〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4 まちやまちや 105号 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332	こころをつたえる 和文具 和雑貨 株式会社 表現社 〒602-0861 京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354 http://www.hyogensha.net/
お茶会・式典・作品展 など イベントのお手伝いは弊社へ  イベント設営・レンタルの京老舗 てらおかしのてん 有限会社 テラオ貸物店 〒602-0029 京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5 TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474 E-mail office@terao-rental.com URL http://www.terao-rental.com	式典写真、風景写真など あらゆるニーズにおこたえします！ 柴田明蘭 写真事務所 (公益財団法人) JPS 日本写真家協会 会員 ☎ 090-8387-7735 FAX 075-311-9369 〒615-0057 京都市右京区西院東長町24 シェルブリュール 403

大本山相国寺御用達 社寺建築 (株)北村誠工務店 〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571	〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二一三八七二 
大本山相国寺御用達 庭園 設計・施工 樋口造園株式会社 〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120	大本山相国寺御用達 御法衣・仏具 (株)後藤利法衣店 〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587
大本山相国寺御用達 精進料理 矢尾 治 〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp	文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達 社寺建築 設計・施工 数寄屋建築  澤甚株式会社 澤野工務店 本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)
貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達 ⌘ 後藤新助法衣仏具店 〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915 番 ファクシミリ (075) 462-3616 番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp	大本山相国寺御用達 籾安田念珠店 〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730 http://www.yasuda-nenju.com/



大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理

植昭 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

金沢本社社屋



東京本社社屋



なくてはならない印刷会社を目指して—

ヨシダ印刷グループは、グループ各社の連携を基盤として、情報伝達と業務改善に関する「なくてはならない」製品・サービスを提供することで、お客様の発展と新しい社会の実現に貢献します。

ヨシダ印刷株式会社 関西支店

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3 新大阪サンアールビル北館10F
TEL.06-6305-7888 FAX.06-6305-7300 URL <http://www.yoshida-p.jp/> 【営業所・工場】 富山・金沢本社・江東潮見
【金沢本社】 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141(代) 【東京本社】 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301(代)

情報セキュリティマネジメントシステム
ISO27001:2013

標準印刷認証
ヨシダ印刷株式会社
金沢本社工場
江東潮見工場



養料 温故知新を織る……

株式会社 龍村美術織物
URL: <http://www.tatsumura.co.jp/>

関西店 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町65番地
京都朝日ビル2階
TEL (075) 211-5002 FAX (075) 211-5305

関東店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-9-1
八重洲中央ビル5階
TEL (03) 3562-1212 FAX (03) 3562-1230

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇

株式会社 **佛光堂**

〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)
TEL(075) 351-4092 FAX(075) 351-7231

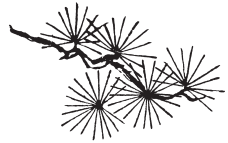
大本山相国寺御用達
京都市指定
有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備 ●ボアリング井戸 ●消火栓設備
- 庭園池の濾過設備 ●お墓の雨水処理 ●設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998



www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店／札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…

京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 京都銀行

ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

JTB

感動のそばに、いつも。

JTB京都中央支店

〒600-8421 京都市下京区横小路通烏丸西入直待番町 167 AYA 四条烏丸ビル 2F
TEL:075(284)0173 FAX:075(284)0153
(営業時間 9:30~17:30 / 土・日・祝日休業)

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com
<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

毎月15日・23日は

三菱UFJ信託銀行の個別相談会 無料
予約制

毎月15日は 遺言の日
毎月23日は 不動産の日

三菱UFJ信託銀行 京都支店

お申込みはこちら

TEL. 075-211-7168

電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶 農林水産大臣賞 30回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねのみどり
萬年乃翠

御薄茶

じょうこう
常光



大本山相国寺御用達

宇治久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2230909
・ジェイアール京都伊勢丹店地下一階
・京都高島屋店地下一階和菓子売場
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元

松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6

電話 075 (771) 0246

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為に努力しています

電気設備工事・消防設備工事

A DACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045

京都市南区東九条西明田町34-21

TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767

E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

相国寺
東京別院
施工

www.mizusawa-inc.co.jp

水澤工務店 東京都江東区木場5丁目6番地1号 TEL 03-3641-7111



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテク株式会社

本社

TEL **075-415-0100** FAX **075-415-0089**

〒603-8143 京都市北区小山上総町10番地1 キョウテク北大路ビル2F

● 編集後記 ●

◇新年おめでとうございます。即位の年、平成から新元号へと変わる年を本派ご尊宿、並びに相国会会員の皆様、関係各位におかれましては、ご息災にて迎えられたと存じます。『円明』第111号をお届けいたします。

昨夏の前号編集時には、大阪北部地震に続き、記録的な大雨に見舞われましたが、その後も場所によっては連日38度以上の酷暑が長期間続き、さらに前例のない東から西へ進んだ台風や、9月4日の京都、大阪を中心とした台風21号の猛烈に発達した強風による被害、6日の北海道胆振東部地震発生、その後の台風24号、25号縦断など、地震と風水災害が連続いたしました。ここに、あらためてお見舞い申し上げます。

9月の台風では京都も本山相国寺や塔頭など関係各所のほか、多くの寺社、建物なども倒木や建物被害があり、それに伴う停電などもあり、改めてこれまでとは異なる経験のない天候の変化や地震に対して、その備えを少しでもしておくことの重要性を感じております。

◇巻頭カラーなどで紹介しましたように、去年は我が国とフランスの交流160周年記念事業が、両国の幅広い分野で行われました。中でも、「ジャポニスム2018」と銘打たれたパリを中心に“世界にまだ知られていない日本文化の魅力”を紹介する大規模な複合型文化芸術イベントが開催され、伊藤若冲筆の絵画も出陳されることになり、相国寺から「釈迦三尊像3幅」と宮内庁より「動植綵絵30幅」がバリエーションで公開され、有馬管長、佐分総長ほかの和尚様方が現地では法要を厳修されました。欧州の多くの方々にも、直接ご覧いただく機会があったのは、大変良い機会でありました。

◇相国寺派の第四教区(福井県若狭地区)を中心に発足した「釈宗演を顕彰する会」により、昨年より連載していただいた釈宗演禪師の没後満100年の顕彰事業、遠諱法要が10月28日、29日の両日執り行われました。鎌倉円覚寺より横田南嶺管長猊下をお迎えし、顕彰碑除幕式や御講演、また遠諱法要の御導師をお勤めいただくなど御法縁を賜りました。詳細は第四教区若狭相国会の伊藤彰会長の報告等をご覧ください。今回も小林玄徳老大師の連載「仏道定款」をはじめ、連載記事や関連画像をご寄稿、ご提供頂きました諸氏には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◇また、第26回「相国会本部研修会」を開催しましたところ、各教区より35名もの会員、檀信徒の皆様にご参加いただき研鑽を積んでいただきました。今後もより充実した内容の研修会にしていける所存ですので、ぜひ次回の研修会にもふるってご参加ください。

◇本年も相国寺派宗務本所、相国会本部をよろしく願い申し上げますとともに、会員、関係者各位のご健勝を、さらなる法幸多き一年になるよう祈念いたします。

(矢野謙堂 記)

えん みょう
円明 平成31年正月号(第111号)
平成31年1月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

竹中大工道具館(兵庫県神戸市)
設計施工: 竹中工務店

株式会社 竹中工務店

DNP

歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。

未来のあたりきえをつくる。

日本印刷株式会社

第53回 京の冬の旅

非公開文化財特別公開 秘められた京の美をたずねて

◆公開期間 平成31年1月10日(木)～3月18日(月)

*公開期間や受付時間が異なる寺院もありますので、詳しくは京都市観光協会にお問い合わせください。

*その他法要や悪天候等、都合により拝観できない日や時間帯が生じる場合があります。

◆公開時間 午前10時～午後4時(午後4時受付終了)

◆料金 一ヶ所 600円(一部800円)いずれも団体割引あり

◆問合せ 京都市観光協会

TEL 075-213-1717
http://www.kyokanko.or.jp

(都合により、寺宝等展示物の内容が変更となる場合がございます。)

相国寺塔頭の他に15カ所が公開されます。

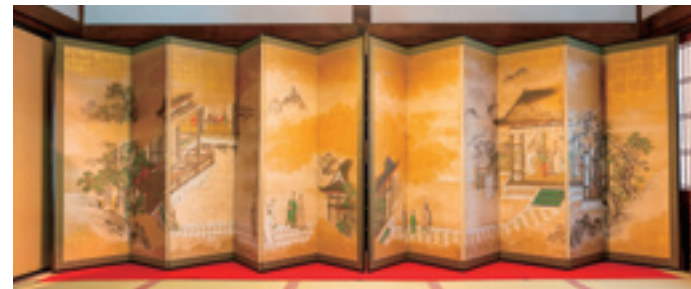
建仁寺 正伝永源院・両足院・霊源院、妙心寺 天球院・麟祥院 龍泉菴、
東福寺 光明宝殿、大徳寺 本坊、智積院、本法寺、善想寺、
仁和寺 金堂・経蔵、転法輪寺、東寺 五重塔

しょうこくじ じしょういん
相国寺 慈照院

京の冬の旅6年ぶりの公開

～足利義政と桂宮の菩提所
朝鮮通信使ゆかりの寺～

アクセス／京都駅から地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅下車、①番出口から徒歩約5分



相国寺 慈照院「帝鑑図屏風」

相国寺 春の特別拝観

京都今出川
鳴き龍の寺

平成31年3月24日(日)～6月4日(火) 拝観時間：午前10時～午後4時

※4月8日(月)は、法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・浴室

拝観料：一般・大学生800円／65才以上・中高生700円

※団体割引あり ※法要・行事のため、予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。



法堂内「蟠龍図」



浴室「宣明」

裏方丈庭園「九重桜」

鳴鶴図

双幅 文正筆

元々明時代 十四世紀 相国寺蔵
紙本墨画淡彩 各一六五・四×八四・八cm

川面をめがけ優美に舞い降りんとする鶴と、地に足をつけて孤高と月を見上げる鶴が描かれる。大画面の二幅対の名画。画中には静寂の気が澄み渡り、両幅の間に響き合う。

向かって右幅の画面、舞い降りる鶴の図には「赤壁横江（せきへきおうこう）」の文字が書かれ、北宋時代後期の文人・蘇軾（一〇三七―一一〇一）の傑作「後赤壁賦」の一場面を想起させる。官職を左遷された失意の蘇軾が、赤壁を訪れた深夜、すでに友は帰った一人寂寥に包まれた時、一羽の鶴が揚子江を横切り、東から西へと羽根を車輪のように広げ、澄んだ声で鳴いて舟をかすめ去っていった。ここには、蘇軾の前に現れた美しく華麗な鶴の姿が描かれる。

また左幅には「九臯唳月（きゅうこうれいげつ）」と記され、中国最古の詩篇『詩経』に収まる詩「鶴鳴」の一節「鶴九臯に鳴き、聲天に聞こゆ（鶴は奥深い谷底で鳴いても、その声は天まで聞こえる）」に基づく図とされる。賢人は身を隠していても名声は広く世に知られる。画家は、月を見上げ孤高とそびえ立つ鶴の凜とした生きざまをそこに描いた。

これらの図は寺伝に、相国寺六世の絶海中津（二三三六―一四〇五）が、洪武九年（一三七六）に中国から帰国する際に請来したといわれる。画家の文正が士廉の為に制作したと記される。共に逸伝の人物であるが、本図は、明国になったばかりの中国に九年を過ごした絶海中津が相国寺にもたらした最新の中国禅林文化の確かな一点であり、またここにもみる厳かで優美な画風はそのまゝ、中世の相国寺文化圏が目指した一つの方向性を指し示している。

相国寺鹿苑内の蔭涼軒主の公用日記『蔭涼軒日録』は、文明十九年（一四八七）八月十三日に鹿苑院で営まれた普明国師一百年忌に、この鳴鶴図を用いたことを記している。二幅は、本尊となる観音図の左右に掛けられた。「三幅一對、大智画なり」。本尊の観音図と鳴鶴図二幅で「三幅一對」と記され、それらは大智院所蔵の画であったと教えてくれる。大智院とは、相国寺山



右幅



左幅

内に在った普明国師すなわち春屋妙葩（二三二一―三八）の塔所のこと。相国寺二世であり実質上の開山国師であった普明国師の一百年忌の莊嚴を、相国寺の僧侶たちは普明国師ゆかりの大智院の什宝によって演出した。本尊の観音図は「呉道子観音」と記され、唐の玄宗朝に古今随一の画聖と評された呉道玄の絵筆によるものであったという。呉道玄は、室町將軍家の座敷飾りの秘伝書である『君台観左右帳記』に、上中下の三ランクの「上」の画家と位置づけられ、観音を得意としたと記される。

仏事を、中国からの舶来絵画によって莊嚴する――。この日の鹿苑院での普明国師一百年忌には、將軍の御成もあつた。大智院什宝の本図は、呉道玄が描いたとされる観音図の左右で、堂々とその清婉峭雅（せいえんしょうが）の画風を披露していた。中世相国寺文化圏の黄金の輝きを垣間見させるような情景が、眼前に浮かびあがってくる。

作品解説／承天閣美術館 副館長 学芸統括 高橋範子

承天閣だより

Jotenkaku Museum

現在の展観

「温故礼讃——百花繚乱・相国寺文化圏」

おんこらいさん

Ⅱ期 2019年1月13日(日)～3月24日(日)

主催／相国寺承天閣美術館、京都新聞 後援／一般財団法人 萬年会 協力／MBS

今から約六百年前、室町三代將軍・足利義満によって創建された相国寺は、金閣、銀閣の世界文化遺産を有し、今もなお禅の古刹としての存在を誇っています。

そこで育まれた文化は、足利將軍家の唐物趣味(中国趣味)と深く関わり、他の京五山禅林とは異なる独自の文化を構築しました。

金閣では義満が膨大な中国絵画の名品を愛玩し、銀閣の地・東山山荘の同仁斎では八代將軍義政が中国の隱遁思想を体現しました。また相国寺では画僧たちが將軍家の御用絵師に代々就任し、そこに誕生した画風は室町水墨画史を多様に彩りました。

相国寺の文化活動は、室町文化の歴史に新風を吹き込みました。

今回の展覧会は、相国寺文化圏と銘を打ち、国宝、重要文化財を多く含む、相国寺に伝来の名品を一堂に展観し、室町時代からの歴史の荒波を乗り越え今に伝わる寺宝への、温故(古きをあたためる)という教えを礼讃しようとするものです。



佐竹本三十六歌仙絵 源公忠 鎌倉時代 重要文化財 相国寺蔵



図常帯戲児 賛善淨染無 筆沖若藤伊 江戸時代 鹿苑寺蔵



図天門沙毘 筆舟雪 室町時代 重要文化財 相国寺蔵



風屏図細道 筆達宗屋俵 賛光丸烏 江戸時代 重要文化財 相国寺蔵



碗茶目天目散花文 南宋時代 国宝 相国寺蔵

次期展覧予定

「言祝ぎの美 ことほぎのび」

I期 2019年4月6日(土)～6月23日(日) II期 2019年7月6日(土)～9月16日(月・祝)

相国寺承天閣美術館事務局

平成三十年十月二十八・二十九日

若狭高浜が誇る偉人

釈しやく宗そう演えん禪師没百年

顕彰式・記念講演会・遠諱法要 開催

(詳細は、教区だより63ページ・本文67ページを参照)



「顕彰碑」除幕式



顕彰式で中学生に感謝状を授与する伊藤会長



遠諱法要で導師をお勤めいただいた横田南嶺管長猥下



横田管長猥下を中心に遠諱法要に出頭した寺院方

第二教区福性寺 第二十世

吉田厚司新住職晋山

平成三十年十一月三日



稚児と共に境内を進む新住職一行



「晋山の偈」を唱える新住職



宗務総長より住職辞令を受ける



晋山式記念撮影

(教区だより62ページを参照)

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

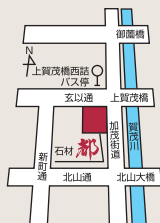


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間／AM8:30～PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地
（上賀茂橋西詰バス停前）
電話(075)491-4114(代) ヨクソ ヨイシ
工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24
（洛北病院バス停前）
電話(075)702-2440
夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117
電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた
不敬忘

敬を忘ぜず（『国語』春秋時代）
うやまいの道を忘却せぬ
開山忌半齋「楞嚴行導」



撮影◎柴田明蘭氏